安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢---------- 36
フロント シート---------- 37
リヤ シート---------- 40
ソフト フラット シート ---------- 43
ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆
テザー アンカー---------- 45

■ シート ベルト

正しい着用---------- 47
3点式ELRシート ベルト ---------- 50
プリテンショナー&可変ロード
リミッター機構付 シート ベルト---- 52
シート ベルトによる
チャイルド シートの取り付け ----- 53
2点式シート ベルト ---------- 55

■ SRSエアバッグ

SRSエアバッグ---------- 56
SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン
シールド エアバッグ---------- 62
SRSエアバッグ警告灯---------- 66
SRSエアバッグ コンピューター---- 67

■ ABS

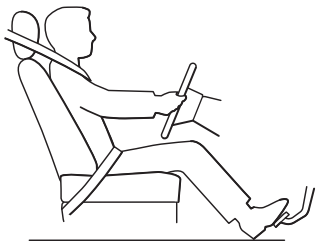
ABS（EBD付） ---------- 69

シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背当てから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッド レスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシート ベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（シート ベルト→ 47 ページ）

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。

フロント シート

⚠警告

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車の場合

- フロント シートに専用のスバル指定用品以外を取り付けないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
  また、スバル純正SRSサイド エアバッグ専用シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- フロント シート表皮の張り替えやフロント シートの取り付け、取り外し、修理などを行わないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ずスバル販売店にご相談ください。

シート スライド調整

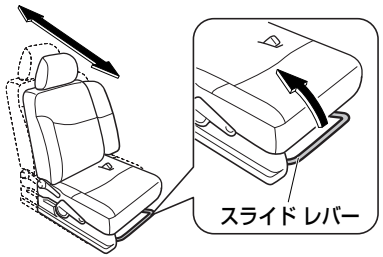
▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



リクライニング調整

▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら背当ての角度を調整します。

⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てを元に戻すときは、背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

ヘッド レストの調整

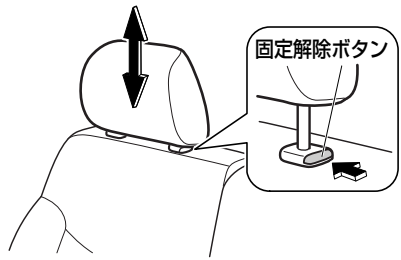
▼調整を行う前に

⚠警告

- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。
下げるときは固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。
取り外すときは固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。



運転席シート リフター

シート全体の高さ調整を行うことができます。

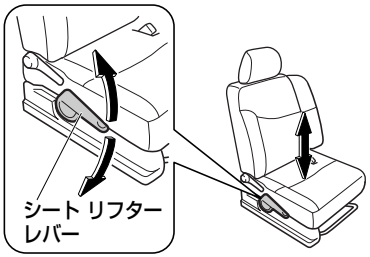
▼操作を行う前に

⚠警告

- 調整は必ず運転前に行ってください。走行中に調整を行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート リフター レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇し、押し下げるごとにシート全体が下降します。



大型アーム レスト

▼使用方法

前に倒して使用します。

アドバイス

- 小物入れとして使用することもできます。
  （センター アーム レスト ポケット＆大型ボックス→ 175 ページ）
- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。

リヤ シート

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背当てより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

シート スライド調整

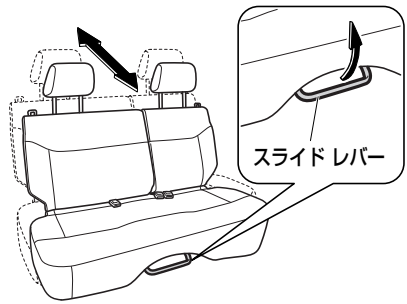
▼調整を行う前に

⚠注意

- スライド調整は必ず停車中に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



アドバイス

- シートをスライドさせるとき、左右両側のシートが一体で動きます。

リクライニング調整

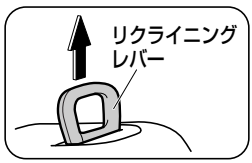
▼調整を行う前に

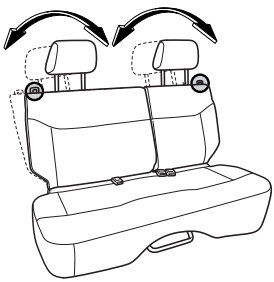
⚠注意

- リクライニング調整は必ず停車中に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引きながら、背当ての角度を調整します。





⚠注意

- リクライニング調整するときは、背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。

アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

ヘッド レストの取り外し

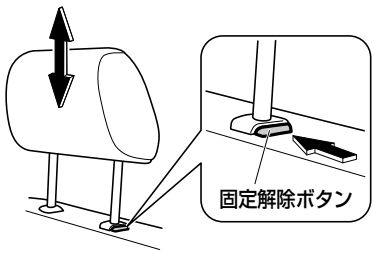
▼操作を行う前に

⚠警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼操作方法

取り外すときは、固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。取り付けるときは、「カチッ」という音がする位置で固定してください。



背当ての前倒し

リヤ シートを操作することで、ラゲージルームを広くすることができます。

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

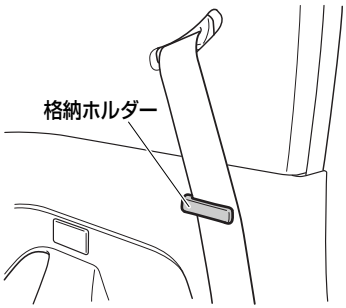
- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 背当てを前に倒すときは、背当てが急に倒れるおそれがあります。必ず背当てを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背当ての上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

アドバイス

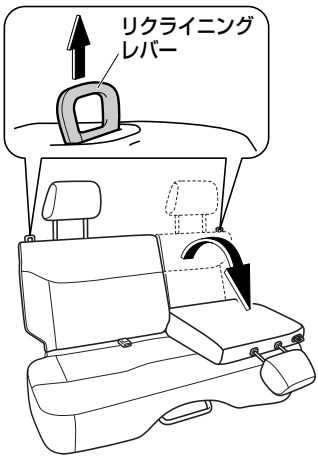
- 背当てを倒すとき、または倒した背当てを元に戻すときシート ベルトがシートにかみ込むことを防ぐために、必ず格納ホルダーにシート ベルトをかけてから操作してください。

▼操作方法

1. かみ込み防止のため、格納ホルダーにシート ベルトをかけます。



2. リクライニング レバーを引き上げながら背当てを前に倒します。



▼元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと、走行中に背当てが動き思わぬけがをするおそれがあります。

ソフト フラット シート

フル フラットにするとき

▼操作を行う前に

⚠警告

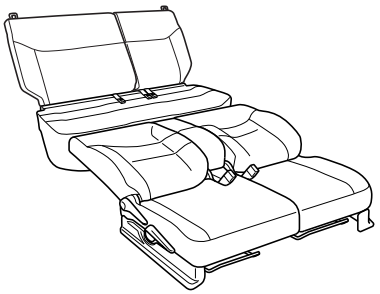
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- フル フラットにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- フル フラットにした状態で、シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
- フル フラット状態は安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

▼操作方法

1. リヤ シートのヘッド レストを外します。
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。
3. リヤ シートの背当てを倒します。
4. フロント シートのヘッド レストを外します。
5. フロント シートを前方いっぱいまでスライドさせます。
6. フロント シートの背当てをリヤ シートと面一になるまで倒します。



▼元に戻すときは

逆の手順で操作してください。

ISO* FIX対応 ISO FIX固定バー＆テザー アンカー

リヤ シート左右席には、ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けるためのISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーが装備されています。

このISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーには、この車専用の道路運送車両の保安基準に適合するチャイルド シート（ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカー対応のスバル純正チャイルド シート）のみ取り付けることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

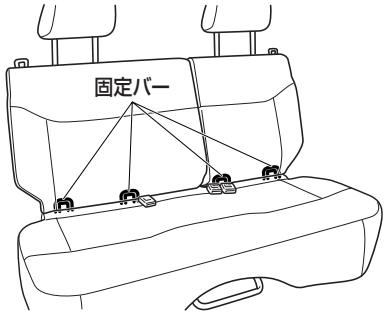
- シート ベルトで固定するタイプのチャイルド シートの取り付け方法とは異なります。

（シート ベルトによるチャイルド シートの取り付け→ 53 ページ）

▼取り付け位置

固定バー

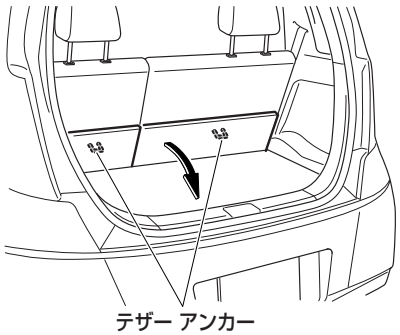
シート クッションと背当ての間にあります。



テザー アンカー

リヤ シート後ろ側下部にあります。

- 前（上）側デッキ ボードを引き下げます。



* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

▼取り付け方法

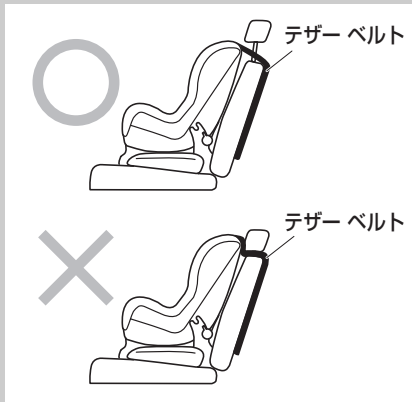
1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーの位置を確認します。
2. 適合するチャイルド シートの取り付け金具をISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーに連結して取り付けます。（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください。）
3. 取り付けたチャイルド シートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認します。

⚠警告

- 取り付け、取り外し要領は、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシート ベルトなどをかみ込むとチャイルド シートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- チャイルド シートを取り付けるときは、リヤ シートのヘッド レストを上げてから、テザー アンカーに固定してください。
  ヘッド レストを下げたままだと、チャイルド シートがヘッド レストと干渉したり、テザー ベルトがヘッド レストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルド シートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- チャイルド シートを取り外したまま室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に収納するか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シート ベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシート ベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
シート ベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シート ベルトにねじれがないこと
- シート ベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠警告

- シート ベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- シート ベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シート ベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シート ベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。

- リヤ シート ベルトの格納ホルダーは背当てを前に倒したときにシート ベルトを固定するための物です。シート ベルト着用時には格納ホルダーから外して使用してください。

シート ベルト

⚠警告

- 1 人で座ることのできない乳幼児の場合はスバル純正のチャイルド シート（ベビー シート）（別売）を使用してください。大人がシート ベルトをしてから抱くことは絶対にしないでください。衝突時などインストルメント パネルやフロント シートの背当てとの間に押しつぶされるおそれがあります。
- お子さまもシート ベルトを着用させてください。ただし、シート ベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、衝突したときなど強い圧迫を受け、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
  スバル純正のチャイルド シート（別売）を使用してください。
- 妊娠中の方もシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
  - 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

⚠警告

- シート ベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシート ベルトを使用しないでください。衝突時にシート ベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシート ベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシート ベルトの効果が発揮されません。
- シート ベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。

⚠警告

- シート ベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シート ベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシート ベルトの脱色や染色もやめてください。
- シート ベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシート ベルト一式を交換してください。シート ベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシート ベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シート ベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

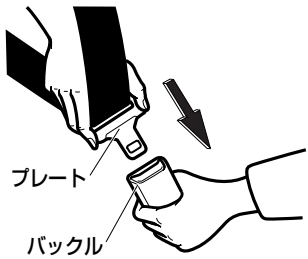
3 点式ELRシート ベルト

リヤ シート中央席以外

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートを調整します。
2. プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 3 点式ELRシート ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

⚠注意

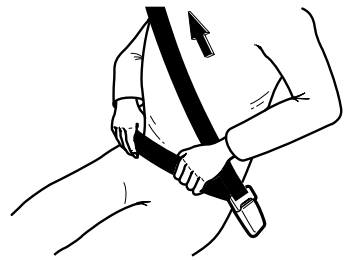
- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席・助手席シート ベルトは、シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

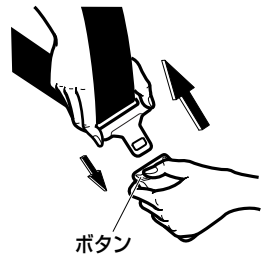
（シート ベルト警告灯 → 110 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認します。



アジャスタブル シート ベルト アンカー

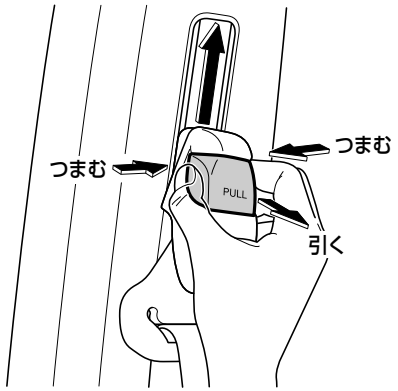
シート ベルトが肩に十分かかるように、シート ベルトの高さを調整することができます。シート ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに使用します。

▼シート ベルトを下げるとき

1. ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
2. シート ベルトを「カチッ」という音がする位置まで下げます。

▼シート ベルトを上げるとき

そのまま持上げます。



アドバイス

- 4 段階に調整できますので、最適な位置で固定してください。

プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シート ベルト

フロント シート

⚠警告

- プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 無線機を取り付けるとき
  - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。

アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロード リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- 可変ロード リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。

シート ベルトによる チャイルド シートの取り付け

▼チャイルド シートを取り付ける前に

⚠警告

- チャイルド シートは様々なタイプの物があります。取り付け要領はタイプにより異なりますので、必ず十分に確認したうえで取り付けを行ってください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。
- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。

⚠注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。肩ベルトに首がかかるような小さなお子さまにはシート ベルトの着用はさけ、スバル純正のお子さま専用シートの使用をおすすめします。取り付けはお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

アドバイス

- 満 6 歳未満のお子さまは、お子さま専用シート（チャイルド シート）の着用が法律で義務付けられています。

▼チャイルド シート*の取り付けかた

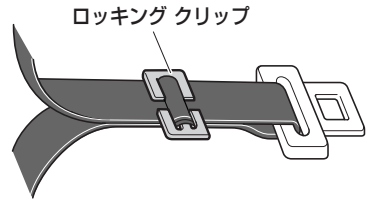
1. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。
2. プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。

3. バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- **プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。**

4. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキング クリップを使用して固定します。



アドバイス

- **ロッキング クリップの取り付けは、お子さま専用シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。**
  また、ロッキング クリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。

5. チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠注意

- **チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。**

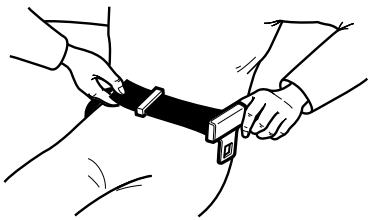
* イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。

2点式シート ベルト

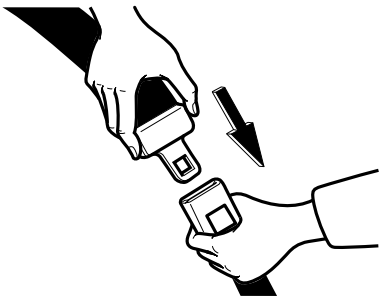
リヤ シート中央席

▼着用するとき

1. プレートとベルトを直角にして、ベルトの長さを調整します。



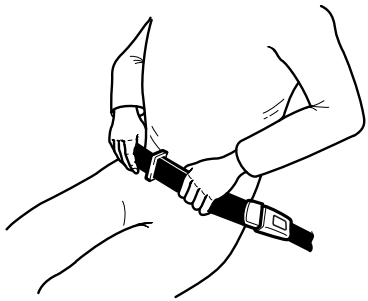
2. ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

3. ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼外すとき

バックルのボタンを押します。

- シート ベルトを使用していないときは、プレートをバックルに差し込んでおいてください。

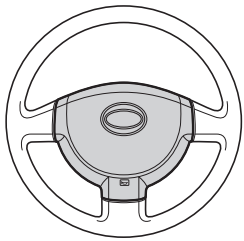
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

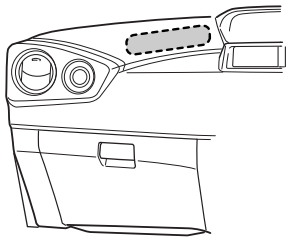
運転席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸への衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸への衝撃をやわらげる装置です。



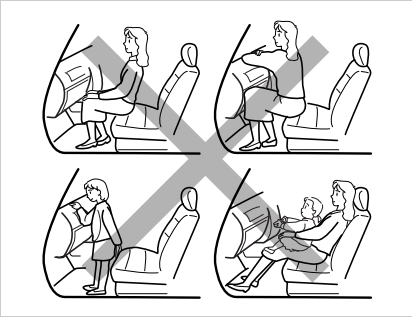
⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシート ベルトと併用して効果が出る装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
（正しい着用→ 47 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメント パネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。
    助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

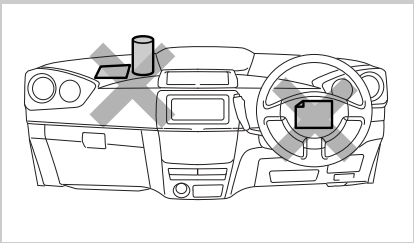


⚠警告

- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、チャイルド シートをリヤ シートに装着して使用してください。
- 助手席にチャイルド シート（ベビーシート）を取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- チャイルド シートの取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。
- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドゥ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠注意

- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパット部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

アドバイス

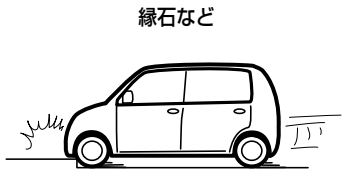
SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車の場合

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRSエアバッグのみ作動
  - SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動
  - SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動

作動する場合

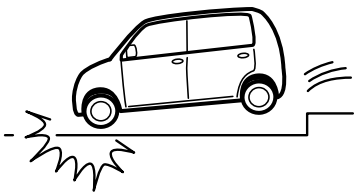
SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にプリテンショナー機構も作動します。
走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき

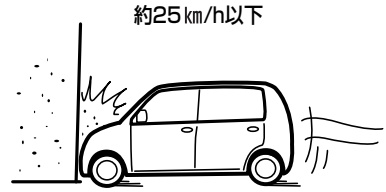
- ジャンプして地面に衝突したとき



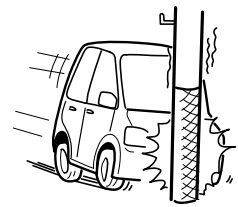
作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

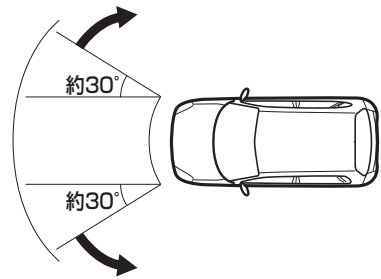
- コンクリートの壁に約 25km/h以下の速度で正面衝突したとき



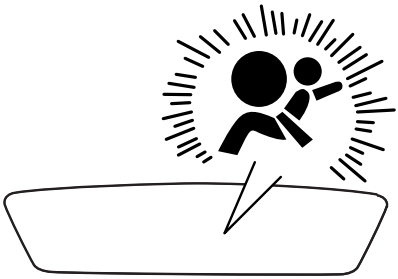
- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



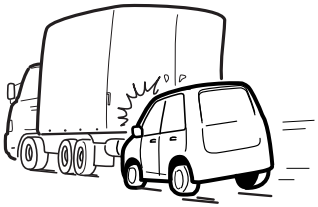
- 前方約 30˚以上の角度でコンクリートの壁やガード レールなどに衝突したとき



- SRSエアバッグ警告灯点灯時

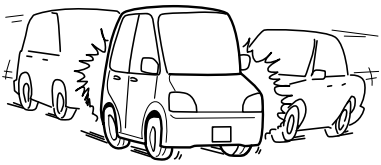


- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき



- 車両が横転、転覆したとき

下記のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- エンジン スイッチが“LOCK”、“ACC”の位置のときに衝突したとき

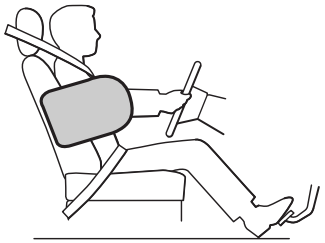
SRS*サイド エアバッグ& SRSカーテン シールド エアバッグ

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、車両側方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

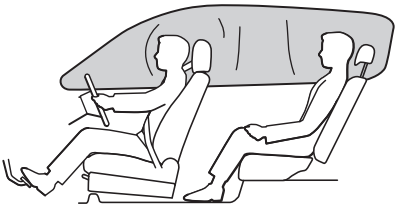
SRSサイド エアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。



SRSカーテン シールド エアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者・助手席同乗者・リヤ シート左右席同乗者のおもに頭部への衝撃をやわらげる装置です。



* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

⚠警告

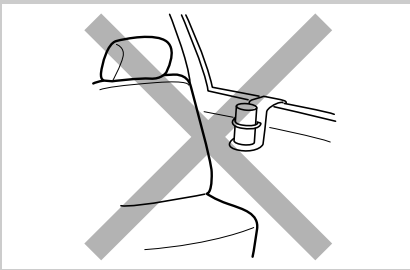
- シート ベルトは必ず着用してください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグはシートベルトと併用して効果が出る装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
（正しい着用→ 47 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、チャイルド シートをリヤ シートに装着して使用してください。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが作動しないおそれがあります。
- フロント シート表皮の張り替えをしたり、フロント シート、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、スバル販売店にご相談ください。

⚠警告

- フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル純正シート カバー以外は取り付けないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうと、SRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のスバル指定用品以外を取り付けないでください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



- SRSカーテン シールド エアバッグ周辺部（フロント ガラス、フロント・リヤ ドア ガラス、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部）にアクセサリー、ハンズ フリー マイクなどを付けないでください。SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

- フロント シート側部、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部などSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - シート、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部を取り外すとき
  - 車両側部を修理するとき

⚠注意

- 車やSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSカーテン シールド エアバッグが収納されているフロント シート、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

アドバイス

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRSエアバッグのみ作動
  - SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動
  - SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動

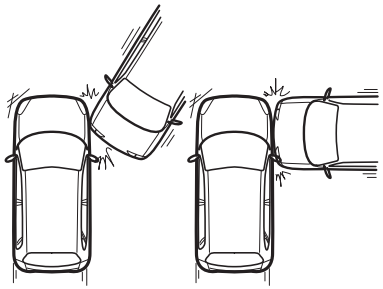
作動する場合

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたとき作動します。

作動しない場合

下記のような衝撃が弱いときには、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき



SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
  （SRSエアバッグ→ 56 ページ）
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ（オプション）
  （SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ→ 62 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構→ 52 ページ）

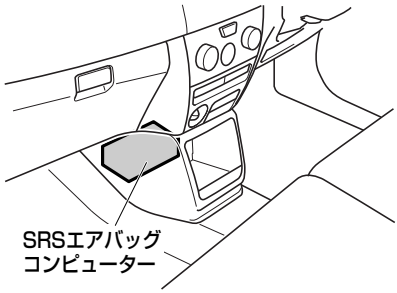
⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



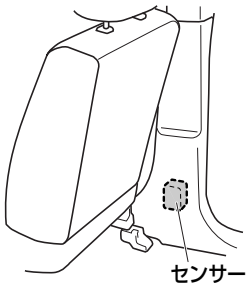
⚠注意

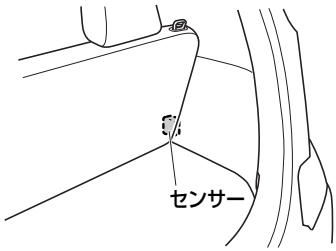
- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSエアバッグ、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ（オプション）が誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、ジュースなどをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグセンサー

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ センサーはフロントシート・リヤ シート左右両側に取り付けられています。





SRSエアバッグ

⚠注意

- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテンシールド エアバッグ センサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSサイド エアバッグ&SRSカーテンシールド エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテンシールド エアバッグ センサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。

ABS

ABS*（EBD付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。
また緊急制動時など、ブレーキ ペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、運転者のペダル踏力を増加させて、制動力を確保する下記の装置を備えています。

- メカニカル 2 段アシスト機能付ブレーキ

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - 砂利道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤ チェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System（アンチロック ブレーキ システム）の略です。

アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

MEMO

MEMO